

認定NPO法人生き生きネットワーク
令和7年度事業報告書

* 令和7年度事業報告 *

はじめに「令和7年度事業報告にあたり」

1. 事業部門別活動報告
2. 委員会活動報告
3. 地域交流・親睦活動報告
4. 理事会・総会等の報告
5. 会員数・寄付者数



令和7年度 事業報告にあたり

これまで生き生きネットワークは、利用者の皆さま、地域の皆さま、関係機関、そして支援者の皆さまに支えられながら、一步一步信頼を積み重ねてまいりました。日々寄せられるご相談やご要望に向き合い、一つひとつの活動に取り組んでまいりました。現在、活動分野は、障害者支援・高齢者支援・子育て支援などを合わせて18部門、活動拠点も5拠点となり、法人として果たす役割と責任は、年々大きくなっております。令和7年度は、人材確保、物価上昇、制度改正、DX化への対応など、取り巻く環境は大きく変化しました。こうした時代の変化を成長の機会と捉え、次世代型の組織づくりに向けた土台を築く一歩となる一年でもありました。

職員が参画する委員会活動が本格的に始動しました。部門の垣根を越え、研修・防災・広報の各委員会の中で、業務改善や質の向上に向けた積極的な意見交換の場となり、それまで解決できていなかった課題の改善につながりました。また、外部理事の皆さまに経営・運営情報の共有や相談等のご協力をいただきました。

人材面では、看護職や保育専門職など、新たな職員を迎えることができました。また「働きがい見える化プロジェクト」により、職員一人ひとりの想いや現場の声を受け止め、やりがい・改善のヒントが見える化し、段階的に改善に取り組んでいます。併せて、部門ごとの手引きの整備、勤怠管理システム、職員間の連絡情報共有ツールの導入など、人材育成と働きやすい職場環境づくりにも取り組みました。

地域とのつながりにおいては、くすくす2号館多目的室の活用を始め、交流事業を通じ、今後さらに地域住民の皆さまや関係団体との新たな交流の輪を広げていきたいと思いをします。

一方で、人件費や運営経費の増加など、経営面での課題も明らかになり、長年経験してこなかった大きな変化が一気に現実化した一年となりました。しかし、こうした課題に向き合う中で、安定した経営基盤づくりの必要性を、あらためて強く認識することができました。

これからも多くの皆さまと語り合い、チャレンジしていくことを恐れずに進んでいきたいと思いをします。

「一人ひとりの想いを組織の力へ ～次の世代へつなぐために！」

1. 事業部門別活動報告

(1) 介護保険指定事業

①居宅介護支援事業所（ケアマネジャー） 契約者 59 名（要介護 38 名、要支援 21 名）

利用者や家族の状況を把握し、適切なケアプランを作成・調整しながら、関係機関と連携して自立した生活と生活の質の向上を支援させていただきます。

令和 7 年度は新規に 12 人の方の受け入れを行いました。ご逝去された方は 3 人、入所された方は 4 人、契約終了の方は 2 人でした。

がん末期の方や心不全による看取りの方、難病の方、重度の認知症の方等、医療との連携が不可欠な利用者さんが多かった年でした。緊急で訪問診療や訪問看護が必要なケースでは、診療所や訪看さんが時間外でもスピーディーに対応してくださり、助けていただきました。在宅での看取りになると、ご家族の介護が中心となり負担も大きくなりますが、ご家族の思いや体調に配慮しながら支援させていただきました。

外部研修では難病や心疾患等の医療研修、医療連携や解決しない困難事例の研修等多くの学びの機会がありました。

包括支援センターより紹介を受けた、他県から転入された 80 代女性の事例では、同居する長男の妻に重病が発覚したことを機に家族関係が悪化、女性から長男の妻や孫たちへの暴言や精神的虐待により、妻や孫達の安全確保が急務な状況でした。行政への相談を重ね解決を模索するなか、警察が介入するトラブルが発生し長男の妻から「助けてほしい」と緊急依頼がありました。警察からの依頼でケアマネがキーパーソンである長男と女性との話し合いの仲介をしました。女性は長男と家を出て二人で暮らそうと長男を説得しました。母親に意見できない長男に代わり、「息子さんの幸せを一番に考えていただきたい、息子さんがどうしたいのか聞いてほしい」と粘り強く説得を重ねました。結果として、女性は他県の長女宅へ転居されケアプランの作成には繋がりませんでしたが、長男の妻からは「おかげで平穏な生活を取り戻せました。子供のためにも治療を頑張ります」とのお言葉をいただきました。今回は目に見える実績（報酬）には繋がらない 6 時間という精神的に負担が大きい業務となりましたが、それでも制度の狭間で孤立するご家族に対し、対話を通して解決の糸口を一緒に見つけるという貴重な経験をさせていただきました。

今後も地域に必要とされる事業所を目指し、地道に支援を続けていきます。

＜居宅介護支援＞		令和 6 年	令和 7 年
ケアプラン作成(件)	要介護	482	425
	要支援	262	259
	計	744	684
相談件数		13	22
認定調査件数		8	14



現在のケアマネジャーです



アセスメントを丁寧に行います



体調確認や課題がないか確認します

②訪問介護事業所・訪問介護相当サービス 契約者 23 名（要介護 12 名、要支援 11 名）
年齢を重ねても「笑顔で自分らしく」ご自宅で暮らしていけるよう、真心と思いやりを持ったサービスを提供させていただきます。

令和 7 年度は、新規契約は 4 件、契約終了は 3 件でした。身体機能の低下により日常生活に支援が必要となった方や、精神疾患により服薬確認や見守りを必要とする方など、それぞれの状況に合わせた支援を開始しました。中には長年医療機関の受診につながらなかった方が、訪問介護をきっかけに受診・入院となり、必要な医療へつながったケースもありました。

入退院や認定区分の変更、サービス内容の見直しなどもあり、その都度ケアマネジャーや関係機関、ご家族と連携しながら支援を継続してきました。

入院後に在宅での看取りを想定して支援を開始した利用者さんが、徐々に回復されて新たなサービス利用につながるなど、ご本人の回復力に驚かされるケースもありました。一方で、長年ご利用いただいた利用者さんが体調を崩し救急搬送後、ご逝去されました。身寄りのない方で、これからのことを考え始めていた矢先の出来事でした。視覚障がいをお持ちではありましたが、食べることが大好きで、訪問に行くといつも楽しいお話を聞かせてくださいました。利用者さんとの出会いや別れを通して、一日一日の関わりの大切さを感じる一年でもありました。

利用者さんごとの情報共有を円滑に行うため、チャットワークを活用した連絡体制を継続しています。チャットワークに不慣れなヘルパーさんには電話連絡も併用しながら、一人ひとりに合わせてサポートを行い、安心して支援に入れる環境づくりに努めました。

今後も利用者さんやご家族が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、関係機関との連携を大切にしながら支援を行っていきます。

<訪問介護>		令和 6 年	令和 7 年
	要介護（人）	17	16
	要支援（人）	20	16
	利用者数（人）	37	32
	要介護（件）	1,196	1,224
	要支援（件）	1,349	976
	件数（件）	2,545	2,200



お買物の内容を確認しています



ヘルパーさんと打ち合わせ中



書類のサインを頂いています

③地域密着型通所介護・通所介護相当サービス「いきいきデイサービス喜楽庭」 (喜楽庭 定員 10 名、契約者 6 名)

住み慣れた地域の中で、その人らしく穏やかに過ごしながら、日々の体操や活動を通して心身の機能維持を図り、世代を超えた関わりの中で笑顔溢れる時間づくりを大切にしています。

令和 7 年度も、利用者の皆さまが安心して楽しく過ごせる場づくりを目指し、季節行事や外出活動、世代間交流などを積極的に行いました。

児童発達支援「のびっこハウス」の子どもたちや、生活介護・放課後等デイサービスの利用者さんとの交流を継続し、合同運動会や敬老会、クリスマス会、新年会、音楽レクリエーションなどを通して、世代を超えた温かなふれあいの機会を持つことができました。子どもたちとの交流では自然と笑顔が生まれ、利用者さんにとって大きな楽しみの一つとなっています。

また、おはぎやスイートポテト、ケーキ作りなどの調理活動を行い、利用者さんが主体的に参加できる機会を設けました。協力して作業を行い、完成したおやつを皆さんと味わうことで達成感や喜びを共有することができました。

外出活動では、城北公園や駿府公園をはじめとする地域の公園への散歩や季節の花見、静岡まつり、相撲巡業の見学、外食などを実施しました。身体機能の維持向上を図るとともに、地域とのつながりや季節を感じる機会となり、利用者さんの気分転換や意欲向上にもつながりました。さらに、地域の学校やボランティアの皆様との交流も継続し、城内中学校支援級の生徒の皆様による作品提供や地域ボランティアによるワークショップ、お抹茶会など、多くの方々のご協力をいただきながら活動を行うことができました。

これからも、少人数でアットホーム、手作りの昼食、子供達とのふれあい、四季を感じる日々の活動に努め、「優しさに包まれる家族的なデイサービス」という喜楽庭の魅力を積極的に発信していきます。

＜地域密着型通所介護＞	令和 6 年	令和 7 年
利用者数（人）	10	8
件数（件）	1, 199	732



日々の活動の様子

④訪問看護ステーション事業所「あんどろ」

※介護保険指定事業所、医療保険指定事業所（契約者 25 名）

お子さんから高齢者さんまでお一人おひとりが安心した在宅生活が送れるように主治医の指示のもと訪問し支援していきます。

令和 7 年度は新規契約が 6 名（医療保険 3 名、介護保険 3 名）、契約終了が 4 名（医療保険 2 名、介護保険 2 名）でした。医療保険で終了した 2 名はご本人もしくはご家族の希望で終了となりました。介護保険で終了した 2 名は施設入所されました。1 名は 11 月からのご利用で、廃用症候群のためリハビリの介入をご希望でしたが、年末に風邪をこじらせた後から状態が悪くなり、ご家族での介護が難しくなり入所となり、まもなく逝去されたと担当のケアマネジャーさんから連絡を受けました。介護をされていた娘様は日に日に体調が変動する様子を見てかなり動揺され、訪問時に涙を流すこともありました。その時々状況や思いをケアマネジャーさんと共有し、ご家族や本人の希望に添うように進めました。

小児を中心に訪問している他ステーションの規模縮小による影響はほとんどありませんでしたが、小児は 2 件、重症心身障害者が 1 件の契約がありました。依頼目的はそれぞれ異なりますが、ご家族の負担が少しでも減るように支援に入っています。また、年齢によって進学や進路の悩みや、将来の不安などさまざまな課題があり、ご家族と一緒に考えたり情報提供できるように、研修や訪問診療所主催の意見交換会に参加しました。「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）」が「医療的ケア児等及び重症心身障害者並びにその家族の支援に関する法律（医療的ケア児・者支援法）」へ改正され、10 月頃に施行となる方向です。改正によって、対象が小児のみの法律から成人と重症心身障がい者も対象となり、制度が変わっていくようなので、研修や意見交換会などで情報や知識を得ていきたいと思っています。

ACP（人生会議）に関しては、ご本人やご家族の状況を踏まえながらの導入でしたが、症状の進行や介護者の受け止め方、理解の難しさに戸惑い、導入のタイミング等、今後の課題と感じました。

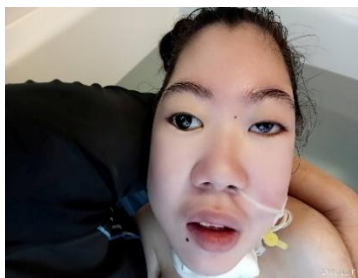
＜訪問看護＞		令和 6 年	令和 7 年
介護保険	利用者数（人）	13	13
	件数（件）	757	722
医療保険	利用者数（人）	11	12
	件数（件）	504	598



訪問看護スタッフ



バイタル測定中



訪問医療的ケア



(2) 総合支援法指定事業

①居宅介護、重度訪問介護、同行援護

<居宅介護> (契約者 28 名)

入浴、排せつ、食事の介助等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の家事援助を行います。

7 年度は新規契約された方が 5 件ありました。ご家族の事情により、夕方の食事介助が必要になった利用者さんは、複数の事業所が関わる中で当事業所が上限管理を担当しながら支援を行っています。さらに、中央特別支援学校に通う児童の入浴介助も開始しました。ご家族だけでの介助が難しいケースのため、複数のヘルパーで協力して対応しています。病気の影響で視覚障がいとなった方への家事援助などの支援も始まりました。それぞれのご家族の状況に合わせ、サービスの提供を行っています。

一方、契約終了が 4 件でした。長年支援を続けてきた利用者の方がご逝去されました、利用実績や他事業所での支援状況を踏まえ、契約終了となった方もいらっしゃいました。

この 1 年も利用者さんの生活環境やご家族の状況の変化に応じて支援内容を見直しながら、一人ひとりに寄り添った支援を継続させていただきました。

<居宅介護>	令和 6 年	令和 7 年
利用者数 (人)	18	16
件数 (件)	2, 000	1, 935



居宅介護家事援助・身体介護のようす

<重度訪問介護> (契約者 1 名)

重度の肢体不自由者であって常時介護を要する障がい者さんに、居宅において入浴、排せつ及び食事等の介護を行います。

30 代の筋ジストロフィーの M さんはこの 1 年を通して体調は比較的安定しており、食事や服薬の状況にも大きな改善が見られました。気管切開後は服薬時の飲み込みが心配されましたが、ゼリーを活用しながら一度に 3~4 粒を服用できるようになっています。また、食欲も良好で、以前は胃ろうの話が出ていたことを考えると、口から食事をしっかり摂れるようになったことは大きな変化だと感じています。また、お母様より体重増加による身体への負担を心配される声がありました。食事内容についてもご家族と相談しながら支援しています。6 月には不整脈により救急搬送される出来事がありましたが無事帰宅され、その後は安定した状態が続いています。

生活面では、生活介護への参加をためらう場面もありましたが、ラジオから流れる政治や社会の話題に興味を示されるなど、周囲への関心も感じられます。

今後もしもご本人の気持ちに寄り添いながら、安心して生活を続けていただけるよう関係機関と連携し、支援を継続していきたいと思ひます。

＜重度訪問介護＞	令和 6 年	令和 7 年
利用者数（人）	1	1
件数（件）	83	104



食事介助



口腔ケア



＜同行援護＞（契約者 30 名）

移動に著しい困難を有する視覚障がいのある方の外出・代筆・代読の支援をします。

7 年度は 5 件の新規契約がありました。他事業所のガイドヘルパー不足により支援継続が困難となった 84 歳の男性の支援を引き継ぎました。現在は週 2 回、近隣を散歩しながら体力作りを行っています。足腰がしっかりされ自立歩行も可能ですが、夏の暑さによる体調面への影響も考慮しながら、安全に配慮した支援を行っています。また、7 年前にご相談をいただきながらも人員不足によりお受けできなかった T さんと改めて契約することができました。盲導犬と一緒に外出される方であり、盲導犬との同行援護は、ヘルパーにとっても貴重な経験となっています。その他、がん治療の影響で視覚障がいとなった 50 代の女性の方から、通院時の同行援護の利用について相談があり、契約を行いました。これまで 1 人で通院されていましたが、ガイドヘルパーと一緒に通院するようになってからは、病院での待ち時間なども安心して過ごせるようになりました。

契約終了は 7 件でした。ご逝去された方や施設入所された方、利用終了の方などおられました。

また、買物の機会を増やしたいという I さんの希望に対応するため、新たに資格を取得したヘルパーが加わり、週 1 回の外出支援が可能となりました。外出機会が増え県外への外出など活動範囲も広がっています。これからも利用者一人ひとりの希望や生活状況に合わせ、安全で安心できる外出支援をしていきたいと思ひます。

＜同行援護＞	令和 6 年	令和 7 年
利用者数（人）	20	18
件数（件）	1, 298	956



支援はお買物やコンサートなど、皆さん足腰丈夫でお元気です♪

②生活介護(喜楽園) (喜楽庭 定員 20 名、契約者 18 名)

就労が困難な 18 才以上で区分 3 以上の方を対象とした通所施設です。少人数で家庭的な雰囲気の中で、その方に合ったいろいろな活動を提供していきます。

令和 7 年度は、新規契約者が 1 名、施設入所に伴う契約終了者が 2 名となり、年度末時点での契約者数は 18 名でした。障害支援区分の内訳は、区分 6 が 5 名、区分 5 が 5 名、区分 4 が 4 名、区分 3 が 4 名でした。1 日の利用者数は 10 名から 13 名で推移し、年齢は最年少 18 歳、最高齢 67 歳と幅広い年齢層の方々が利用しました。

利用者の皆様は、障害支援区分や年齢差に加え、自閉症や情緒障害など、それぞれ異なる特性を持っているため、一人ひとりが心身ともに健康で穏やかに過ごせるよう、日々スタッフ間で話し合いを重ね、情報共有を行いながら支援に努めました。

工夫・配慮した点としては、利用者間の相性を考慮して居室を分け、少人数で落ち着いて過ごせる環境づくりを行いました。また、散歩や制作活動では担当スタッフを決め、スタッフ 1 名に対して利用者 1～2 名を配置することで、可能な限り一人ひとりに寄り添った支援を行いました。

さらに、体調面や情緒面の小さな変化も見逃さないよう心掛け、状況に応じて臨機応変に対応するとともに、スタッフ間で迅速に情報共有を行いました。個別記録についても、要点を端的にまとめ、誰もがすぐに状況を把握できるよう記録方法を工夫しました。

その結果、大きな事故やトラブルもなく、体調面・情緒面の不調により長期間休む利用者もいませんでした。

今後も、一人ひとりに寄り添った丁寧な関わりを大切にし、その方らしさを受け止めながら、利用者の皆様が穏やかに日々を過ごし、一步一步ともに成長していけるよう支援を続けていきます。

〈生活介護〉	令和 6 年	令和 7 年
利用者数 (人)	18	18
件数 (件)	2, 620	2, 589



調理実習



個々合わせた散歩コースで健康維持向上



室内レク活動

(3) 地域支援事業

①移動支援（地域生活支援）（契約者 52 名）

知的障がい、身体障がいの方の外出支援をしています。利用者が住んでいる地域での生活を豊かにするために、映画鑑賞やボーリングなどの余暇活動、市役所や銀行の手続き、買い物、理美容院の利用など、生活に必要不可欠な外出支援を行っています。

契約状況では、年度当初から 10 名の契約終了があった一方で、新規契約の方も 5 名いらっしゃいました。またコロナ禍以降利用を控えていた方の利用再開もありました。

新たに支援を開始した T さんは、グループホーム入所後、新しい生活環境に慣れず、周囲の土地勘もないことから 1 人で外出が難しくなり、週末は自室で過ごすことが多くなっていました。しかし、移動支援の利用開始後は月 2 回の定期的な外出ができるようになり、現在はグループホームの最寄りのバス停から一人で乗降できるようになりました。また、入所中のお母様の施設へ訪問するなど活動範囲も広がり、外出への意欲がみられるようになっていきます。

さらに、他事業所の支援回数減少に伴い、支援を引き継いだケースや、以前から利用されている方からの紹介による新規契約もありました。

その他、友人同士で外出を楽しみたいという希望に合わせて、複数のヘルパーで対応する支援も行いました。

また、昨年度も猛暑が続いたため、支援時は水分補給や休憩を取りながら熱中症対策を徹底しました。これからも、利用者の「出かけたい」という思いを大切にしながら、安心・安全を優先した移動サポートの提供に努めていきます。

＜移動支援＞	令和 6 年	令和 7 年
利用者数（人）	24	26
件数（件）	482	573



大道芸へ行きました



お買い物



移動支援で外出を楽しみます♪

②重度障がい者等就労支援特別事業（地域生活支援）（契約者1名）

重度障がい者等（重度訪問介護、同行援護、行動援護を利用する者）が就労するために支援を必要とするものの、既存の障がい福祉サービスでは「経済活動」を理由にサービス利用が出来ない時間があります。そうした方を対象に、就労にあたり必要な身体介護サービス等を提供しています。

現在の契約者は1名で、4名～5名のヘルパーが毎月のスケジュールを調整しながら支援を行っています。また、この事業の対象外となる内容については同行援護のサービスを活用し、その都度行政に確認しながら適切なサービス提供に努めています。

利用者のOさんは、網膜色素変性症による進行性の視覚障がいがありながらも、就労支援B型事業所の管理者として意欲的に活躍されています。しかし、この1年で視力の低下が進み、「明かりが分かる程度でほとんど見えなくなった」と話されることもあり、移動や日常業務への不安が増しています。これまで一人で移動できていた場所でも支援が必要となる場面が増えました。

支援内容としては、代筆・代読、パソコン作業の補助、資料整理、郵便物の確認、銀行や市役所への同行など、日常業務に必要な支援を行いました。また、防災用品の袋詰め作業やシール貼り、裁縫、ミシン作業等、事業所内での作業補助も行っています。

さらに、東京で開催された機器展示会への出張や、県庁販売会に向けた準備・打ち合わせへの同行、材料購入の支援など、就労活動の幅を広げるための支援も行いました。11月には沼津で開催された視覚障害者向け機器展への裁縫制作を支援しました。製作・企画・展示までの過程を共にし、展示会場に足を運び喜びを分かち合いました。

＜重度障がい者等就労支援特別事業＞	令和6年	令和7年
利用者数（人）	1	1
件数（件）	249	299



ご利用者さんの活動参加に寄り添っています

(4) 児童福祉法

①放課後等デイサービス・児童発達支援（知的障がい児対応）わくわく

（くすくす 定員 10 名、契約者 24 名：児童発達 1 名、放デイ 23 名）

遊びや活動を通して一人ひとりの個性を生かし、笑顔あふれる療育を目指しています。

令和 7 年度は利用児童一人ひとりの自主性を重んじた支援に加え、行事や体験活動を通じ社会性を育む支援に取り組みました。さらに、児童の気持ちや状況の変化に、保護者や学校等と協力・連携を密にしながら「安心して気持ちを表現できる場」となるよう支援に取り組みました。

個々の力をチームとして発揮できる連携・協力の仕組みなど、研修会や他事業所の特色や支援の工夫に触れることができました。日々の支援に取り入れる機会となりました。

また、わくわくでは体験しにくい、野菜の栽培、牛の餌やり、川遊び等、他の事業所との繋がりや輪が広がりました。利用児と共に活動が広がりました。わくわくというスクラムを組んでの新たな体験により、子どもたち結びつきを強め豊かな時間として積み重なっていると感じています。

集団活動・表現活動の一環として、ソーラン節を全員で披露することを目標に、毎日練習を重ねました。身体を大きく動かす運動面だけでなく、仲間と声を掛け合いながら動きを合わせることで協調性や自己表現を育む活動となりました。他部署へ披露する場を設けたり、「いきいき交流運動会」で発表する機会もあり、当初は戸惑いや緊張を見せていた児童も徐々に集団活動の輪に入ることもでき練習を重ね、本番を迎えることができました。発表後には達成感に満ちた笑顔が見られました。こうした一つ一つの経験が子どもたちの自信や成長につながっていると実感でき、これからも挑戦する喜びを大切に心に残る活動を続けていきます。

今後も、保護者面談や日々の連絡・調整をより丁寧に行いながら、困りごとの把握に努め、必要に応じて関係機関の活用についても提案してまいります。

＜わくわく＞		令和 6 年	令和 7 年
放課後等デイサービス	利用者数(人)	24	24
	件数 (件)	1, 882	2, 350
児童発達支援	利用者数(人)	1	1
	件数 (件)	48	35



夏祭りソーラン節ダンス♪



他の放デイと合同体験会(牧場・ジャガイモほり)



クリスマス会

②放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護（重症心身障がい児者対応）るんるん

（くすくす 定員 5 名、契約者 15 名：児童発達 1 名、放デイ 10 名、生活介護 4 名）

どんなに重い障がいがあっても、毎日活発に笑顔いっぱいの日々を過ごせるよう、個々人にあった支援をしています。

児童発達支援では、児童館やおもちゃ図書館への外出、季節行事への参加など様々な経験を重ねる中で、歩行が安定してきたり発語やジェスチャーで気持ちを伝えられるようになってきたりと、一人ひとりの成長を感じる場面がたくさんありました。日々の小さな積み重ねが大きな成長につながっていることを実感する 1 年でした。

放課後等デイサービスでは、地域のお祭りへ出かけたり、お花見や公園でのランチを楽しんだりしながら、心穏やかに過ごせる時間を大切にしました。

夏には水遊びや合同夏祭り、ゲーム活動などを行い、友達やスタッフとの関わりを楽しみながらたくさんの笑顔を見ることができました。重症心身障がいのある子どもたちは、一度体調を崩すと回復までに時間がかかることも少なくありません。長期入院を経て利用を再開したお子さんも、学校や関係機関と連携しながら少しずつ日常を取り戻し、在宅での生活を続けています。ご家族との情報共有を密に行いながら、その日の体調や表情の変化を丁寧にみていくことも大切だと改めて思いました。

生活介護では、利用者さんが楽しみながら取り組める活動を大切にしています。今年度はフリーマーケットに向けてシュシュなどの製作活動を行い、販売による収益で日頃お世話になっているご家族へのプレゼントを購入しました。メッセージカードを添えてお渡しすると、大変喜んでいただくことができました。利用者さんにとっても、「自分たちで作ったものが誰かの喜びにつながる」という貴重な経験となりました。

また、季節感を楽しめるような外出や外食を計画したり、生活環境が変わる利用者さんのサポートをしながら、一人ひとりが安心して過ごせる時間づくりに努めてきました。利用者さん同士がお互いを気にかけて合う様子も見られ、温かな関係が育まれています。

子どもたち一人ひとりの思いや体調に寄り添いながら、「今日も楽しかった」と感じてもらえるよう支援を重ねていきます。

くるんるん>		令和 6 年	令和 7 年
放課後等デイサービス (就学児 6 歳～18 歳)	利用者数 (人)	10	9
	件数 (件)	719	646
児童発達支援 (未就学児 0 歳～6 歳)	利用者数 (人)	4	2
	件数 (件)	131	164
生活介護 (高校卒業 18 歳以上～)	利用者数 (人)	4	4
	件数 (件)	382	406



仲良しの友達



プール遊び



大道芸を楽しみました



すいか割り

③放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護(重症心身障がい児者対応)にこここ

(くすくす2号館1階 定員5名、契約者18名：児童発達3名、放デイ7名、生活介護8名)

1日1日を大切に、より多くの笑顔が溢れる楽しい時間を過ごせるよう努めています。

令和7年度は、「医療的ケアが必要な方々が安心して過ごせる場所づくり」を大切にし、防災体制の強化や地域とのつながり作り、利用者主体の活動の充実に取り組みました。

防災への取り組みでは、くすくす2号館への蓄電池設置に向けたクラウドファンディングに多くのご支援をいただきました。災害時の安心につながる環境整備だけでなく、活き生きネットワークの活動を広く知っていただく機会ともなりました。また、防災訓練や避難訓練、安全確保訓練を実施し災害時の対応力向上に努めました。

地域との交流では、放課後等デイサービス事業所との交流や各種団体への会場提供を通して新たな学びや出会いが生まれ、地域に開かれた拠点としての役割を再確認しました。

日々の活動では、散歩や制作活動、畑での野菜づくりなど、季節を感じられる取り組みを行いました。夏祭りは利用者の皆さんの意見を取り入れた「キャンプ」をテーマに開催し、一人ひとりの「やりたい」という思いを大切にしながら活動を作り上げることができました。また、猛暑時には安全対策を工夫して、室内プールや室内運動を取り入れました。

生活介護は利用者数が増加しました。また、ペットボトル回収によるリサイクル活動を開始しました。利用者の皆さんと地域貢献について考えながら活動を進めています。

放課後等デイサービスでは、利用していた高校生が卒業し生活介護へ移行するなど、それぞれのライフステージに進みました。にこここでは、児童期から成人期まで切れ目のない支援を提供できている成果の一つでもあります。

看護職員の退職に伴う人員配置の調整もありましたが、法人内で連携しながら受け入れ体制を維持し、安心して利用できる支援環境づくりに努めました。

今後も医療的ケアが必要な方々が安心して過ごせる環境づくりを進めるとともに、地域とのつながりを大切にしながら、一人ひとりに寄り添った支援の充実に努めてまいります。

<にこここ>		令和6年	令和7年
放課後等デイサービス (就学児6歳～18歳)	利用者数(人)	7	7
	件数(件)	492	378
児童発達支援 (未就学児0歳～6歳)	利用者数(人)	5	3
	件数(件)	278	178
生活介護 (高校卒業18歳以上～)	利用者数(人)	6	8
	件数(件)	533	653



♻️リサイクル活動事前学習も行いました



クラウドファン 沢山のご支援ありがとうございました 🍀

④児童発達支援「のびっこハウス」(知的障がい児対応、定員 10 名、契約者 18 名)

未就学の知的障がいをお持ちのお子さんが通所し、生活や遊びの中でお友達と触れ合いながら丈夫な身体を作り、基本的な生活リズムや生活習慣、コミュニケーションや社会性を育んでいます。

令和 7 年度も、一人ひとりの発達や生活状況に応じながら生活や遊びの中で、自分の気持ちを安心して表現できる環境づくりや、「やってみたい」という意欲や主体性を育むことを基本方針として療育を実施しました。また、人との関わりを通して他者への関心を広げていきました。

支援にあたっては要保護児童の受け入れを行い、子ども本人の支援だけでなく、保護者や兄弟を含めた家族全体への支援を意識しながら関係機関との連携を図り包括的な支援に取り組みました。

また、複合型施設の特徴を生かし、高齢者デイサービスや生活介護の利用者さんとの交流の機会を継続し、普段の触れ合いを通じて多世代が互いを認め合い、支え合う関係づくりをすすめ、子どもたちは多くの経験を積むことができました。

また、ハロウィンや英和女学院のハンドベルコンサートなどの行事を通して地域の方との交流を深めました。さらに近隣の高校生によるボランティア活動やサマーボランティア、実習生の受け入れを行い、地域に開かれた事業所として役割を果たしています。

新たな取り組みとして、市内の子ども園との交流機会をつくりました。定型発達の子どもたちとの自然な関わりができ、社会性を育む機会が増えました。

また、県内複数の児童発達支援事業所の事例検討会や研修の機会を持ち、支援の質の向上と事業所間の連携強化を図りました。

今後も子ども一人ひとりの育ちを中心に据えながら、家族支援、多世代交流、地域交流、関係機関との連携を発展させ、地域に根差した児童発達支援の充実に努めていきます。

＜のびっこハウス＞	令和 6 年	令和 7 年
利用者数 (人)	14	18
件数 (件)	2, 167	1, 958



喜楽庭合同ミニ運動会



敬老祝会



高校生ボランティアさんと
テレビ出演



ボランティアの
お兄さんとおやつ



親子遠足



地域の方々とハロウィン



英和女学院による Xmas
ハンドベルコンサート ♪



みんなに見守られた卒園式

⑤居宅訪問型児童発達支援(重症心身障がい児対応)「のびっこハウス」

(契約者0名)

令和元年5月に開所し、24時間人工呼吸器を必要とする外出が困難な重度の障がいのある児童の居宅に令和5年3月まで定期的に保育士等のスタッフが訪問して、遊びを通して日常生活に必要な動作や知識など支援し、生活能力が向上するようサービスを提供していました。

令和7年度、計画相談さんから問い合わせが1件ありましたが、通所に通えることになり、利用には至りませんでした。その後も問い合わせ等もないため令和8年度に廃止届を提出する予定です。そして新たに保育所等訪問支援を多機能として運営していき、地域の中で子どもたちが互いに成長できる環境づくりに努めていきます。

〈居宅訪問型児童発達支援〉	令和6年	令和7年
利用者数(人)	1	0
件数(件)	2	0

居宅訪問型児童発達支援
のびっこハウス

重症心身障害児発達支援とは？
外出困難な重度の障がい児の居宅に、保育士等のスタッフが訪問して、遊びを通して日常生活に必要な動作や知識など支援し、生活能力が向上するようサービスを提供する事業です。

一家庭で完結して療育が行えるよう「身体づくり」、「人との関わり」、「日常生活」を支援の柱としながら、次のような取り組みを実施しています。

身体づくり 人との関わり 日常生活

○身体づくり (体操、縄跳び、おまわりなど) ○ふれあい遊び (お歌、絵本、クッキングなど)
○言葉遊び (おしゃべり、言葉遊びなど) ○お絵かき、おまわり
○季節の行事 (お祭り、お花見など、七夕、クリスマス、お誕生会など)

重い障がいであっても、毎日常訓練の取り組みを通じて能力を高め、自立を支援していきます。

本居宅訪問型児童発達支援について
・1歳から18歳までの児童が対象となります。 (障害児支援法に基づき) (詳しくはお問い合わせください)
・本居宅訪問型児童発達支援は、児童発達支援事業の一部です。 (詳しくはお問い合わせください)
・1対1の個別支援が基本となります。 (詳しくはお問い合わせください)
・本居宅訪問型児童発達支援は、児童発達支援事業の一部です。 (詳しくはお問い合わせください)

居宅訪問型児童発達支援ののびっこハウス 静岡市葵区長谷町24

本居宅訪問型児童発達支援ののびっこハウス (静岡市葵区長谷町24) 電話：054-200-1517
月曜日～金曜日 8:30～17:30
TEL:054-200-1517 FAX:054-200-1518

（５）本来事業（助け合い事業・制度外）

①家事支援・介護全般訪問（登録者 278 名）

本来事業は、活き生きネットワークの前身である“働く母の会”から変わらず、「困った時伺います」の理念に基づき実施する助け合い活動です。家事のお手伝いや、ベビーシッター、外出の同行等、さまざまな依頼にお応えします。

令和 7 年度も子育て世帯や高齢者、障がいや疾病を抱える方など、さまざまな事情により日常生活の中で困りごとを抱える利用者さんへの、制度の枠にとらわれない柔軟な支援を行いました。

子育て支援では、離婚調停中で 3 人の幼いお子さんを育てながら就労訓練を受けている方や、保護者の精神的不調やお子さんの不登校により生活が不安定となったご家庭への家事支援を行いました。継続的に関わることで少しでも安心して日々の生活を送っていただけるよう努めました。

また、高齢者や障がいのある方への支援として、入院中の自宅清掃や退院後の生活支援、不安障がいや難病などにより日常生活に不安を抱える方への見守りや通院付き添いを実施しました。

年末には大掃除や住環境整備に関する依頼が増加し、ヘルパーの皆さんの協力により対応することができました。専門的な作業についてはリフォーム部門と連携し、利用者さんのニーズに応じた支援体制を整えました。

令和 7 年度はコーディネーターが交代しましたが、長年活動を支えてくださっているヘルパーの皆さんのご協力により、安定したサービス提供を行うことができました。利用者さんとの信頼関係を大切にしながら、その時々々の困りごとに寄り添い、必要な支援を柔軟に提供できることが本事業の大きな特徴です。今後も地域の皆様が安心して生活できるよう、支援体制の充実とサービスの向上に努めてまいります。

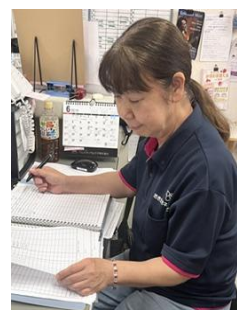
〈家事支援・介護全般訪問〉	令和 6 年	令和 7 年
利用者数（人）	82	80
件数（件）	1,744	1,758



お掃除支援



お買い物支援



コーディネーター

②リフォーム部

リフォーム部は、専門的な清掃、修繕等の家庭内の困り事に対応しています。現在はつばさ静岡さんなどの定期清掃を主に不定期清掃も行っています。就労支援にもなっています。

令和7年度は、施設のメンテナンスと清掃を中心に多くの作業が進められました。特につばさ静岡では、設置以来清掃をしていなかった天井埋め込み型空調機の解体洗浄を5箇所のエリアゾーンに分け、業務の調整をしながら行いました。きれいな空気が部屋に噴出されると、スタッフの方々も大変喜んでいらっしゃいました。少しでも感染症対策になればと思います。又建物補修工事については、壁のクロスジョイント目開きや剥がれの補修を行いました。それぞれ難工事でしたが、専門の業者さんと協力しながら順次対応しました。

年末には大掃除の依頼が多く、多忙な協力業者さんと利用者さんの日程調整・見積もりなど丁寧に進め、窓ガラスや浴槽などの清掃作業を行いました。

8年度は、年末年始の大掃除が立て込むので早めの日程調整・打ち合わせを進めていきたいと思います。

全体として、施設の維持管理を着実に進めるとともに、契約関係の見直しを提案するなど、利用者さんとの信頼関係を深めることの重要性を認識した一年でした。

また、スタッフの健康面で緊急的に離脱が発生しました。スタッフの調整に苦労した経験を活かし、他部門の協力を得て、誰が応援に入っても困らない体制づくりを進めていきます。

＜リフォーム＞	令和6年	令和7年
清掃部門（件）	126	117
工事部門（件）	13	11



ホール床掃除



玄関清掃



天井埋込型空調機解体洗浄



壁クロス剥がれ補修

③みんなの居場所&こども食堂「もぐもぐキッチン」

令和7年3月よりイートインを再開しました。コロナ禍で4年以上に渡りお弁当のみの販売でしたので、お弁当屋さんだと思っていらっしゃる方が多く、再開した当初はお店で召し上がる方は少人数でした。そのうち、SNSや「すろーかる」で広く紹介して下さったおかげで、探して来てくださるお客様が増えました。最初のうちは近隣の方が多く口コミで利用される方がほとんどでしたが、「Googleで見ました」と旅行中に寄ってくださる方や遠方から来てくださる方も増え、時にはお店に入りきらないこともあります。

令和8年3月から、高齢者デイサービスの利用者さん、のびっこハウスの子供たちに加え、生活介護（喜楽園 成人部）のお給食提供も始まりました。高齢者さんには身体にやさしい食事、のびっこハウスの子供たちには喜んで食べてもらえる栄養価の高い食事、成人部の皆さんには若くて運動量の多い方向けの食事と、いろいろな世代に喜んで召し上がっていただけるようなメニュー・量を考えながら作っています。中にはアレルギーをお持ちの方もいるので、その情報にも気をつけて対応していきたいと思います。

また、物価高のため、テイクアウト容器やお弁当を入れるビニール袋、諸々の食材も値上げが続いています。お客様にも「この値段でやっていけるの？」や「安すぎるよ」などと言っていただき、令和8年5月より値上げさせていただきました。



和やかなひとときを！



日替わり定食の例



テイクアウト弁当の例

おひとりでも、ご家族でも、 どなたでもお気軽にどうぞ！	
MENU	
営業時間 月・火・木・金 9:30~13:00	
・テイクアウト弁当	600円
・日替わり定食(店内)	700円
・おにぎり定食	500円
・焼きカレー	500円
・ミートソース	500円
・コーヒー・アイスコーヒー (小ケーキ付き)	300円
・黒はんぺん	200円
・ごはん大盛り	+100円
みんなの居場所 & 子ども食堂 もぐもぐ もぐもぐキッチン	

メニュー改定しました

④福祉有償運送

公共交通機関をひとりでは利用しにくく、活き生きネットワークの会員登録と静岡市福祉有償運送会員登録をされた高齢者(介護認定を受けている方)、障がい児・者(手帳保有者)を対象に、必要な場所への移送を行っています。

令和7年度の福祉有償運送事業では、利用者の移動支援と安全な運行の継続に努めるとともに、車両体制や安全管理体制の充実を図りました。

利用者の状況としては、会員の退会による減員があった一方で、新たな利用登録や再利用の申し込みがありました。通院だけでなく、施設入所者の余暇活動を目的とした利用も増えており、利用者の生活を支える移動手段としての役割が広がっています。

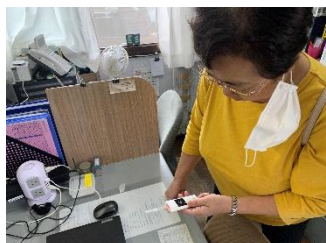
事業の取り組みとしては、市交通政策課および中部運輸支局への各種報告を行うとともに、制度改正に伴うアンケート調査への協力や情報収集を行いました。

安全面では、猛暑期の車両点検や空調管理、アルコールチェック、運転者の体調管理を徹底し、安全運行に努めました。また、安全運転管理者講習の内容を職員と共有し、法人全体で安全運転意識の向上を図りました。

車両管理については、新たにコーヨー自販様による福祉車両の点検管理体制を整備しました。さらに、WAC 清水さわやかサービス様より福祉車両キャラバンをご寄贈いただき、送迎体制の充実につながりました。

今後も利用者一人ひとりの生活を支える移動手段として、安心・安全な運行の継続とサービスの充実に努めてまいります。

<福祉有償運送>		令和6年	令和7年
会員登録者数(人)		36	32
運転協力者数(人)		18	21
車両数(台)		6	6
運送目的別 件数	通 院	138	167
	通 学	7	4
	その他	145	195
	合 計	290	366



出発前に健康状況確認、アルコールチェックをします。
透析のため施設から病院まで利用しています 🏠



移動困難な方でも、有償運送を使って、自分の行きたい所へ行けて楽しそうです 🚗



(6) 委託事業

①静岡市緊急サポートセンター事業（静岡市こども未来局こども未来課）

病気のお子さんの預け先がなくて仕事を休めない時や、急な残業でお子さんのお世話ができない時など、働く親御さんの困りごとをサポートします。支援するまかせて会員の養成、まかせて会員をコーディネートして自宅に伺います。

令和7年度はインフルエンザが大流行し、11月、12月の問い合わせはインフルエンザによる依頼の多い状況が続きました。

支援スタッフ研修会でまかせて会員になった会員が、支援に対して前向きに取り組んで下さったため、コーディネートは円滑に進めることができました。一方で、新規まかせて会員の連絡手段が、固定電話を所有していないため、FAXからLINEやチャットワークを活用する体制へ移行しました。その為、登録カードやアセスメント、地図、援助依頼書などの書類も携帯電話で撮影・送信する手間が増えましたが、コーディネートをサポートする職員とも共有化を図りスムーズに対応できました。また、支援が特定の会員に偏らないように調整を行いました。今年に入り急激に支援依頼が減少した影響で、まかせて会員の中には「安定した職業に就きたい」との理由で活動を終了される方もいました。緊急サポートの課題は依頼の予測が困難なため、今後も安定的にまかせて会員を確保することが継続的な課題となります。支援時間については、利用料金の負担軽減を考慮する家庭が増え、終日利用よりも短時間の利用が増加しました。また、精算を父親が行うケースも増えています。これまで母親中心であった利用形態に変化が見られ、父親の育児参加が広がっている社会的背景も影響しています。登録時も「できる限り両親が仕事を休んで対応しますが、どうしても休めない場合の安心材料として登録したい」との意向が増えています。実際に利用がなくても、登録することで精神的な安心につながっている様子がうかがえます。緊急サポート事業は、実際の支援提供だけでなく、働く保護者にとっての安心の基盤となる存在であるため、今後もその役割を果たせるよう努めてまいります。

＜緊急サポートセンター＞	令和6年	令和7年
おねがい会員（人）	1,394	1,342
まかせて会員（人）	217	225
計（人）	1,611	1,567
サポート実件数（件）	211	166



研修会（子どもの遊び）



研修会（AED 日赤短期講習）



あそび子育て研究協会
大川先生



出張登録会

②静岡市清水病児・病後児保育室「虹いろ」（静岡市こども未来局こども園運営課）

定員 3 名（緊急時 4 名迄）

静岡市から委託を受け、清水区天神にて運営しています。お子さんが病中または病後であり、保護者が就労等の理由で保育が必要になった場合に、お子さんをお預かりして必要な看護や保育を行っています。

令和 7 年度は、年度当初に一定の利用があったもののGW中は減少し、気候の安定していた 6 月前半までは利用のない日も見られました。しかし梅雨入りを境に気温が上昇し、昼夜の寒暖差が激しくなると利用者が増加し始めました。5、6 月はアデノウイルス感染症や上気道炎、気管支喘息に伴う咳の症状が多く、7 月に入ると下痢を伴う風邪が多く見られました。8 月前半は予約が殺到し、毎日 2～3 件のキャンセル待ちや空気がなくお断りをする事があった一方、お盆期間中は予約がありませんでした。9 月は季節の変わり目による寒暖差から予約件数も多く、キャンセル待ちにするのが心苦しい時期もありました。その後、気候が安定すると予約のない日が数日続くなど、気候に伴う流行の波を実感いたしました。10 月前半は風邪症状が多く、後半からはインフルエンザ A 型の流行と胃腸炎・気管支炎が見られました。流行が落ち着いた 11 月前半は、利用者が 1 名のみ、または利用なしの日もありましたが、後半には再び予約が増加し利用をお断りせざるを得ない日も多くありました。12 月はインフルエンザ A 型による兄弟での利用が目立ちました。4 歳以上の児童は保護者の同意を得て同室での受入れを行い、連日最大 3 名まで預かりましたが、それでもキャンセル待ちや受け入れ不能となるケースが多発しました。1 月に入るとインフルエンザ B 型が流行し始め、胃腸炎も増加しました。2 月は水痘も増加傾向でした。

年齢別では、年度当初から夏場にかけては 1～2 歳児の利用が中心でしたが、8 月や 12 月以降は学童児の利用が目立ちました。特にインフルエンザは出席停止期間が長期に及ぶため、1 人あたりの利用期間が長期化する傾向にあります。

令和 6 年度から始まったネット予約システムが、令和 7 年度で定着しつつあります。保育記録がリアルタイムで保護者様へ届くようになり、体調確認や翌日のスケジュール判断に活用され、好意的に受け入れられています。また職員も過去の利用記録を容易に参照できるようになり、一人ひとりに合わせた看護・保育ができるようになりました。

問い合わせに関しては、予約システムや病児・病後児保育室の利用全般に関する内容が多いです。これに対し職員間では、システムや施設利用について簡潔に説明ができるよう、日々気づいた点を共有・確認し合いながら進めています。

＜虹いろ＞	令和 6 年	令和 7 年
利用者(人)	108	114
件数(件)	355	342



絵本タイム、ぼく大好き



みんなで食べると美味しいね



誰かわかるかな？

2. 委員会活動報告(案)

新設された各委員会(防災・研修・広報)のそれぞれの視点から、部門の垣根を越えて現場の声を業務改善やケアの向上につなげています。これまでの安全衛生委員会、イベント担当を含めた組織横断的な活動に正職員全員が参画し、意思決定のプロセスに参加することで、オープンな情報共有並びに働きがいの向上を目指していきます。

(1) 安全衛生委員会

労働安全衛生法に基づき、職員の安全と健康を確保し、快適な職場環境を作ることで安心して働ける職場改善を目的とした委員会です。委員は産業医、衛生管理者を中心に、毎月定例、及び案件に応じて随時開催しています。

① 職員の健康状況

産業医と連携し職場巡回や健康診断データの確認、必要に応じた個別面談・指導実施等、職員の健康対応に努めました。病氣療養からの復職者や治療中の職員に対し、体調や本人の思いを汲んだ復帰フォローについて意見交換しました。熱中症対策指針に基づき、黒球式熱中症指数計を導入して危険な屋外活動の回避や水分補給を徹底しました。職員を対象に健康課外活動(歩こう会・健康ヨガ・ストレッチ等)を始めました。

② 「働きがい見える化プロジェクト」

職員を対象としたアンケートを実施し、回答データの整理・分析を行いました。クラウド型勤怠管理システム(MINAGINE)の運用を開始し、柔軟な働き方の検討と労務管理の可視化を進めました。その結果から、これまで見過ごされがちだった課題、今後の職場環境の改善に段階的に活かしていきます。

③ 「虐待防止委員会」・「感染症対策委員会」

法令により介護事業所や障害者福祉事業所で設置が定められ年2回開催しています。感染症対策委員会では、「感染症予防及びまん延防止の為の指針」を改定し、現場の実践をチェックできるよう「感染症対策実技の手引き・チェック票」を加えました。虐待・拘束防止対策については、「グレーゾーンチェック票」の作成により、不適切ケアとなりうる危険性を孕む基準を示せるようにしました。

④ 防災活動

防災委員会から定例的に報告がありました。くすくす2号館の太陽光発電蓄電池や発電機等の電源確保が進み、これらを活用した総合防災訓練(11/14)を実施しました。災害対策本部設置・伝達訓練・備蓄品配分、宿泊滞在図上訓練等、一歩進んだ防災訓練の進め方について検討しました。引き続き、防災課題の見える化、安全確保の対策を進めていくことを確認しました。

⑤ ヒヤリハット・事故報告

車両の自損・物損事故、訪問の遅れ、現場の一時的な職員不在等、事案ごとに速やかに事実確認・危険要因について話し合い、それぞれの現場で再発防止につてミーティングを行い、必要に応じて連絡調整会議等で共有し法人全体での共通認識と周知の徹底を進めました。送迎車両体制については、親交のあるNPO法人より福祉車両(キャラバン)の寄贈を受けました。ストレッチャー仕様車にて送迎運行の助けとなります。

(2) 研修委員会

職員の専門性向上と組織力強化を目的として、法定研修の確実な法令遵守と体系的な研修体制の整備を進めています。

令和7年6月に新設した研修委員会は、年間を通じて7回の委員会を開催しました。新設初年度は、法定研修のオンライン化、いきいき研修会の計画的な運営、スタッフの手引きの整備を中心に、職員が学び続けられる基盤づくりに取り組みました。研修を従来の「義務の履修」にとどめず、職員一人ひとりの学びと組織力の向上に繋がる一年となりました。

① 法定研修のオンライン化（イーケアラボ導入）

虐待防止研修やBCP研修等の義務化に対応するため、受講の利便性向上・コスト削減・履歴管理の効率化を目的に、複数のeラーニングサービスを比較検討のうえ「イーケアラボ」を導入しました。導入後は、通所系・訪問系といった部門ごとの実態に合わせてカリキュラムを調整し、計画的な受講と職員ごとの進捗管理を進めました。今後は、現場の課題に即した教材の活用も視野に入れ、より実効性のある研修内容への見直しを図っていきます。

② いきいき研修会

職員参加型の集合研修として、偶数月の定期開催を基本に計画的に運営しました。心身のセルフケア、摂食支援、障がい理解、防災、マナー・接遇など、職員アンケートや参加者の声を踏まえた多様なテーマを取り上げ、外部講師との連携や参加型・体験型のプログラムを積極的に取り入れました。参加後のレポート提出を研修の一環として定着させ、設問形式への見直しや提出の呼びかけを通じて、学びの言語化と業務への活用意識を高めました。あわせて、準備業務の役割分担を明確化し、特定の担当者に負担が偏らない、継続的に開催できる運営体制づくりを進めました。

③ スタッフの手引き

新人育成のOJTツールとして、部門ごとの実態に即した「スタッフの手引き」（標準業務書）の作成を各部門で進め、多くの部門で作成を終えました。法人理念や基本マナー、現場でのOJT項目などを盛り込み、新人研修の場での活用方法の検証・改善にも着手しました。今後は未作成部門の完成を図るとともに、職員評価や面談との連動により、入職後の成長を組織として見守り支える仕組みとして定着させていきます。

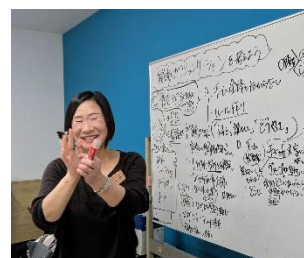
令和8年度は、この1年間の経験と課題を活かし、中間層・リーダー層への研修強化など研修体制をさらに充実させ、組織全体のスキルアップと成長につながる体制を整えてまいります。



法定研修会－訪問部門



いきいき研修会-5/23 共生型サービス 6/20 リラックスヨガ体験



2/7 職場のコミュニケーショングループワーク

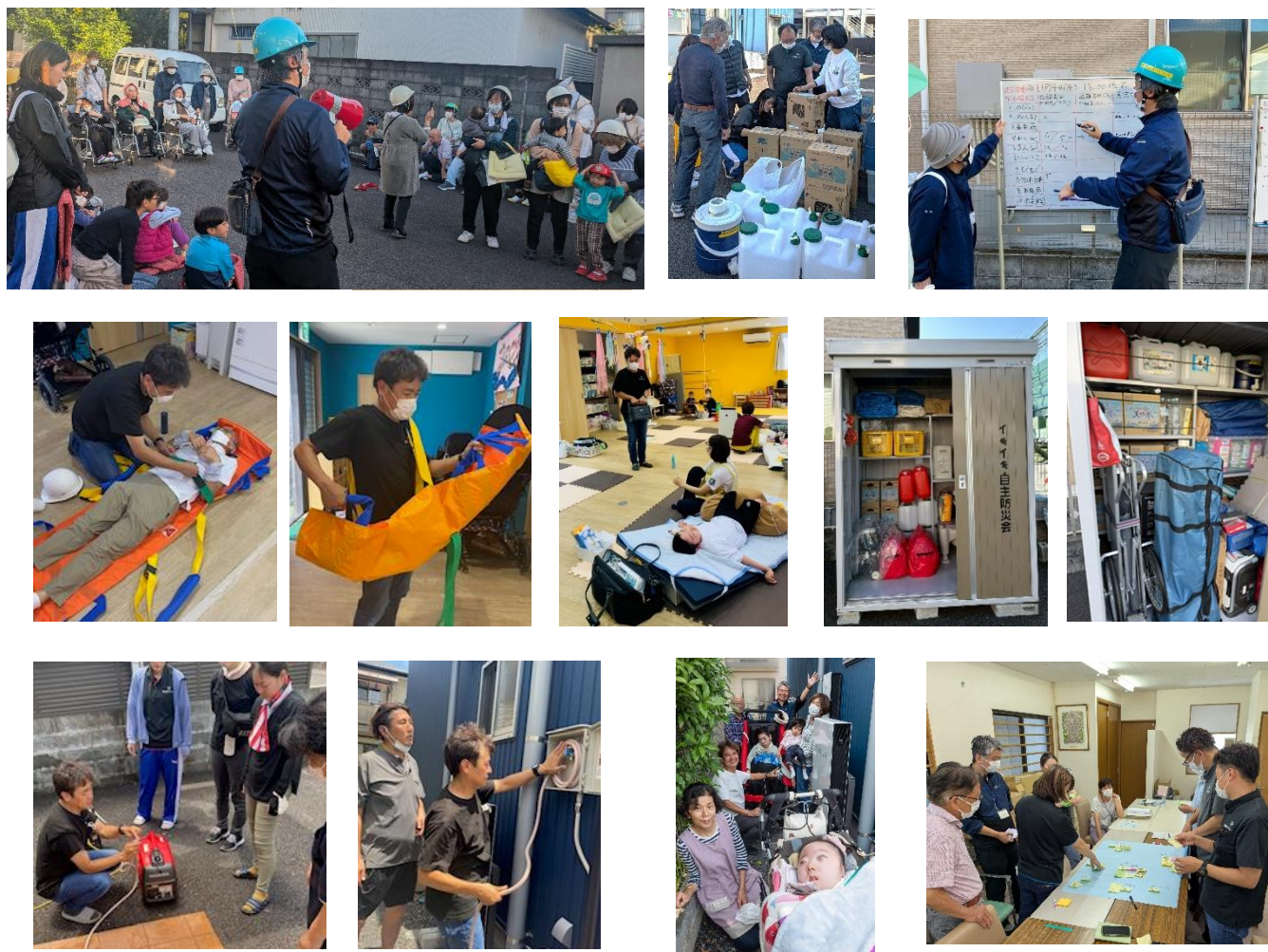
(3) 防災委員会

「防災委員会」は、大規模災害時等における防災力の強化に向け、各施設の甲種防火管理者・看護師等を中心に編成し、防災計画の推進及び災害発生時における災害対策本部としての体制整備に取り組んでいます。また、各施設における防災計画及びBCPの改定・見直しを進めています。

令和7年度は、実効性のある訓練と体制づくりを目指し、全職員を対象とした防災アンケートを実施しました。アンケート結果から見えてきた課題について、委員会内で優先順位を整理し、段階的に取り組みを進めました。具体的には、災害対策本部の運営基準・立ち上げ訓練、ソーラー発電・蓄電池等が整備されているくすくす2号館（1号館）を「滞在型避難所」として宿泊を伴う避難所運営を想定した図上訓練を実施するなど、実践的な組織運営面での備えを進めました。

これらの委員会委員(防火管理者職員)を通して、各施設の自衛消防隊の活動についてリアルに話し合う機会が増え、部門ごとのBCPの見直し・点検につながりました。

これからも、職員一人ひとりが災害対応を「自分ごと」として捉え、必要な行動につなげられるよう、実効性のある防災体制づくりを継続して進めてまいります。



災害対策本部設置訓練、ガス発電発電機使用訓練、担架、蓄電池残量チェック、防災備蓄倉庫、図上訓練等

(4) 広報委員会

「人と人とのつながりを伝える広報」をモットーに、SNS、機関紙「ほっと通信」・ホームページとの連携を強化し、法人の魅力をより分かりやすく丁寧に発信しています。

① 広報媒体の連携強化

ほっと通信 No135～139 を発行し、会員・寄付者、関連機関の皆様へお届けしました。SNS (Instagram・Facebook)、ホームページ、事業報告書と相互に連携しながら、法人全体の活動や魅力を継続的に発信しています。

② SNS を活用したリアルタイムな情報発信

Instagram・Facebook を活用し、日々の活動の様子を写真やショート動画・リールなどでリアルタイムに発信しました。フォロワー数も増加し、より幅広い層への情報発信につながっています。

*SNS フォロワー数(R8. 6. 20)

- ・Instagram 1,362 名
- ・Facebook 149 名

③ 情報共有体制の強化

ビジネスチャット「Chatwork」を活用し、職員間の情報共有が飛躍的に進みました。連絡や報告が迅速かつ簡潔に共有できるようになり、チーム全体の連携強化につながっています。

④ 職員の声による魅力発信

「働きがいの見える化プロジェクト」と連携し、若年層や専門職に向けた職員紹介を発信しました。ホームページやほっと通信を通して、活き生きで働く魅力や職場の雰囲気伝えることで、次世代人材の採用につながる広報活動を進めています。

⑤ クラウドファンディングのご協力とお礼状

2025 年 2 月 25 日から 2025 年 4 月 25 日にかけて、蓄電池購入のためのクラウドファンディングを実施しました。261 名の皆様から温かいご支援とご協力をいただき、太陽光蓄電池、プロパンガス発電機、ポータブル蓄電池を導入することができました。クラウドファンディング終了後には、活動内容やご支援いただいた方を紹介するリーフレットを作成し、寄付証明書とともに支援者の皆様へ郵送いたしました。



クラウドファンディング感謝お礼状



クラウドファンディング新聞記事

3 地域・会員交流活動報告(案)

(1) 交流・親睦交流活動の開催

令和7年度は、親睦運動会・職員旅行等、会員・利用者(家族)・関連団体・職員が立場を越えて交流する機会を増やし、相互理解と信頼関係を深める大切な機会です。共に楽しむふれあうレクリエーション等、人と人との繋がりを広げ、皆さんに喜んでいただけるよう運営しました。交流運動会(春・秋)はお昼までのミニプログラムで約100名の笑顔が溢れる運動会となりました。

- ・フリーマーケットに近隣の方々・NPO等の出店が広がりました。
- ・恒例イベントは、順次、要望の多かった交流催事を開催しました。
- ・4月19日 フリーマーケット(駐車場)
- ・5月18日 ワーカー親睦日帰りバス旅行(名古屋、29名)
- ・8月23日 安東夏まつり出店(安東中グラウンド)
- ・10月12日 第22回交流運動会(シズウェル体育館・会議室、123名)
- ・11月6日 村上開明堂福祉コンサート招待参加(生活介護・同行援護等23名)
- ・11月08日 フリーマーケット(駐車場)
- ・11月23日 ワーカー慰労会(焼津松風閣、55名)
- ・12月11日 支え合い活動フェスタ in しずおか出展(グランシップ 6階)
- ・12月14日 クリスマス会(Tembooo、101名)
- ・12月25日 英和女学院音楽部 Xmas ハンドベルレク(喜楽庭)



4/20・11/16 フリーマーケット
キャンパスコーヒーさん



角屋老舗さん



ベーカリー風さん



笑顔で再会



ポップコーンプレゼント
(ユースー静岡さん)



8/17 安東夏まつり出店



5/7 ワーカー日帰りバス旅行



10/12 第22回交流運動会



11/23 ワーカー慰労会(焼津松風閣、55名)



12/11 支え合い活動フェスタ in しずおか出展(グランシップ)



12/14 クリスマス会(Tembooo)



12/25 英和ハンドベルレク

(2) くすくす2号館等を活用したワークショップ・イベントの協催

- ・外部関連機関等「認定 NPO 法人 ALD 未来を考える会」と連携したワークショップの協催
- ・成人部・わくわく・成人部等の音楽レク・ダンス・ミニ運動会、手遊びレクの活用
- ・職員の心身のリフレッシュ・仲間とのつながりの場として、職員・関連機関を通じた健康増進等の課外活動の奨励(先生と歩こう会、YOGA 倶楽部、ストレッチ&トレーニング講座、エスパルス観戦チケット参加等)
- ・地域貢献・交流促進に向けた多目的室の外部への利用貸出し。利用規約・貸出ルールの整備(非営利活動関連、顔が見える関係等(令和8年1月から))

(3) ボランティア体験・実習生受け入れ対応

NPO・関連機関と連携して、実習生・ボランティア体験等の受入れを行いました。ボランティア受け入れ手引きに添って現地オリエンテーション・現場見学をしたうえで有益なものとなるよう受け入れの対応をしました。プール遊び・お散歩・室内レクリーダー等、目標をもって積極的にふれあい活動に取り組んでいました。

常葉大保育実習生は、実習後にわくわくでアルバイトとして勤務し新卒者として活躍されています(わくわく)。ボランティア体験・実習生受け入れは24名となりました。

常葉大学保育卒業実習2名(10日間・わくわく)、常葉大学3年生2名(10日間・成人部)、静岡県ボランティア協会サマーショートボランティア9名(中・高校生)、静岡市社会福祉協議会葵区地域福祉推進センター2名、静岡高校定時制生8名(のびっこハウス)、卒園児のボランティア1名(のびっこハウス等)でした。



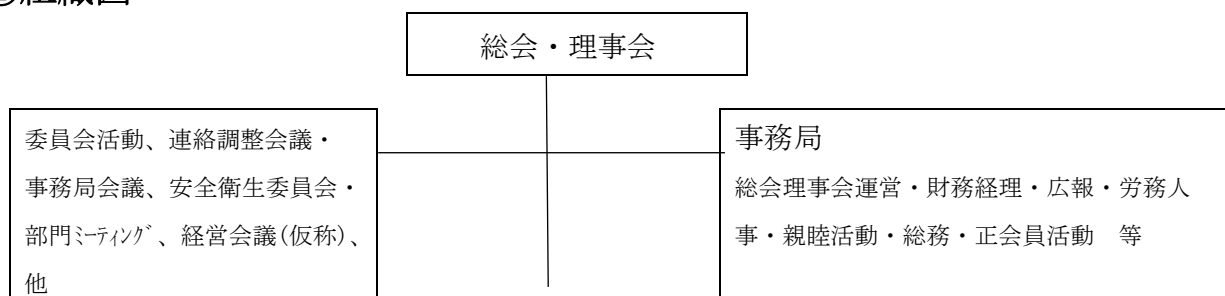
実習生・サマーショートボランティア体験受け入れの様子

(4) SDGs 宣言事業所活動

SDGs の理念である「誰一人取り残さない」という考え方は、活き生きネットワークの理念「お一人おひとりが、その方らしく活き活きと生きるためのお手伝い」と重なるものであり、令和2年度より静岡市 SDGs 宣言に参加しています。令和7年度は、SDGs の5分野の開発目標を法人の事業計画と関連づけて活動目標を設定し、日々の事業活動の中で取り組みを進めました。昨今、社会情勢が大きく変化する中であっても、一つひとつの活動を粛々と取り組むことで年度計画を達成し、SDGs の推進に努めてまいります。

4 会員数・寄附者数

①組織図



本来事業	子育て支援	障がい児者支援	高齢者支援	リフォーム部	地域交流活動
家事支援 もぐもぐキッチン 就労支援 困りごと相談 福祉有償運送 ベビーシッター	託児ルーム ベビーシッター 病児病後児保育室 緊急サポートセンター	同行援護 移動支援 居宅介護 生活介護 放課後等デイ 児童発達支援 居宅訪問型児童発達支援	ケアマネジャー 訪問介護 通所介護 訪問看護 相談事業	家庭内清掃 住宅改修 定期清掃 つばさ静岡清掃 除草・枝切作業	運動会 クリスマス会 フリーマーケット 寄り合い日 視察対応 実習生受入 ボランティア受入

② 会員数・寄附者数

(人)			令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
会員	正会員		52	53	51
	賛助 会員	ドリーム会員	290	285	274
		ワーカー会員	135	125	131
		団体会員	2	2	2
	計		479	465	458
寄附者	(人)		218	258	124



10/12 第 22 回交流運動会集合(ソスウェル体育館・123 名)



12/14 クリスマス会(Tembooo、101 名)



3/28 予算総会・懇談会(多目的室 39 名)